



ほんじつ ～本日のおすすめの本31～

おく 『ナヌークの贈りもの』



ほしのみちお ちよ しょうがつかん ねんしよはん
星野道夫 著 小学館(1996年初版)

*この本は4番の書棚にあります。(貸出可能)

オーロラに誘われて歩いているうちに、いつの間にか夢の世界にはいつてしまった少年は、「ナヌーク」と出会います。少年はナヌークに、真の狩人になるために必要な自然界のおきてについて教えられます。「ナヌーク」とはエスキモー(イヌイット)の人たちの言葉で「氷海の王者・シロクマ」のことです。

かつて氷の世界で共に生きるエスキモーとナヌークの間には、大切な言葉がありました。それは、不思議な言葉で、狩るものと狩られるものをやさしく結びつけ、生と死の境さえなくしてしまうものでした。あらゆる命は、つながっていることが、美しい写真や言葉でつづられています。

長年、北極の自然と人間を撮り続けてきた写真家 星野道夫の写真とエスキモーの神話をモチーフにした物語で構成された写真絵本を、ぜひ読んでみましょう。

命の輝き・美しさ・尊さを感じられる一冊です。

自分で読むなら4年生から。
読んでもらうなら1年生から楽しめます。



自然・野生動物・人間との関係は、様々な課題を抱えています。「ナヌーク」の言葉は、地球に生きるすべての人へのメッセージでもあります。